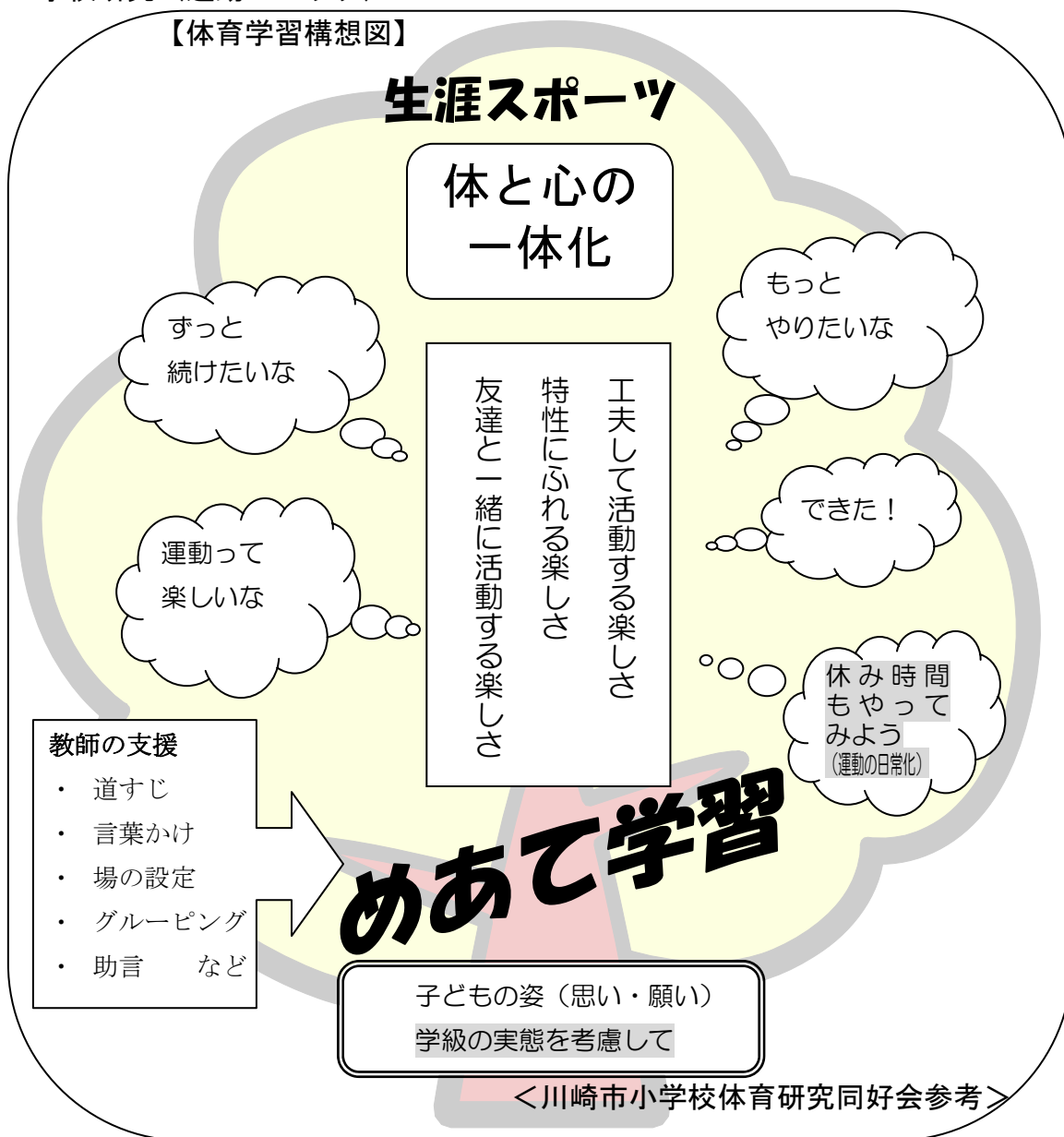
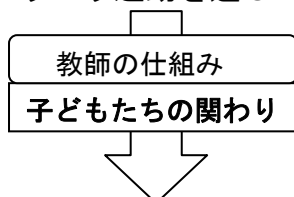


【体育学習構想図】



体育の授業を学級経営に生かす

クラスの子どもの実態⇒こういう運動を通して⇒力がつく（学級が変わる）



「運動の楽しさや喜びを求める自発的で個性豊かな活動」

めあて学習を促す学習形態と学習活動とのかかわり

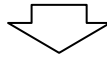
(1) 個人的スポーツ

① マット運動, 鉄棒運動, 跳び箱運動

自分の目指す技が上手になるための工夫された場にそれぞれ出かけて行き、そこに集まった者同士で、教え合い、励まし合いながら学習を展開する形態。

② 障害走, 走り幅跳び, 走り高跳び

記録に挑戦したり、個人対個人の競争もしたりできるが、いずれの場合も、記録の達成が重要な要素となるので、技能、記録を達成するために工夫された場所に着目し、活動を組織するという点は、器械運動と同様。



児童が自らめあてをもち、それに合う学習についての判断を下し、動き回り、話し合い、教え合い、励まし合いながら、自由に活動するというように多様な活動が同時に進行できる。



興味や関心あるいは諸能力で組織された柔軟な学習グループで展開

(2) 集団的スポーツ

集団対集団の競争が特性の中心。

チーム（グループ）の編成の原則…「勝敗の未確定性」をできるだけ幅広くする。そのために、チーム間の力が均等になるように編成することが大切。チームの構成員の一人ひとりが楽しむことができるためには、人間関係への配慮も大切。

競争の特性に触れる学習を深めるため⇒競争の組み立て方の工夫

- ・ ルールや作戦の工夫
- ・ 練習

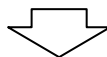
自発的・自主的に行われるようにすることが大切。

(原則的に) ①競争する相手を自分たちで決める。

②ルールについて競争相手と話し合っで決める。

③ゲームは、同じ相手と最低2回以上行う。

ねらい①の段階では、総当たりにゲームを行い、ねらい②の段階では、対抗戦でゲームを行う。



いろいろな人と力を合わせてゲームをする中で、運動（競争）を楽しむための学習を幅広く広げ、多くの他者と触れ合う経験を豊かにしていく。

期待する子どもの姿

期待する子どもの姿	自分のめあてをもつ	楽しく学び合う
	<ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな動きや運動のやり方を知る。 ・ 動きのイメージをもつ。 ・ 自分のやりたい動きや願いを見つける。 ・ 自分の力に合った課題を見つける。 ・ 課題解決のための練習方法がわかる。 ・ 自分のやりたい動きに挑戦したり工夫したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仲間といっしょにかいっぱい運動を楽しむ。 ・ みんなと楽しむためのルールや場を工夫する。 ・ 仲間のめあてや運動のコツを知り合う。 ・ 自分の課題の解決やよりよい動きにするために仲間と励まし教え合う。 ・ がんばりや技能の伸びを仲間と認め合う。

体育授業のポイント

	運動の楽しさを味わわせる手だての工夫	仲間とのかかわりの場の工夫
体育授業のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ○運動の特性の吟味と学習計画の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもにとって意味や価値が分かりやすく、自発的・自主的に学習が進められる運動 ・ 運動の楽しさを体験していくための学習の道すじ ○めあての解決に向けた活動ができる場の工夫 ○一人ひとりのめあてや技能習得の様子を把握するための学習カードの工夫 ○適切で具体的な支援の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・ 適切な資料の提示 (VTR, 資料, カード) ・ 学習の見通しをもたせる ・ 指導者の共感的な評価 ・ 個のめあての広がりへの対応の工夫 ・ 運動のコツ提示 ・ 個人差を配慮した場の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動の型に合わせた学習形態の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・ ペア ・ 少人数グループ 兄弟グループ ・ 課題別グループ 能力別グループ ○仲間との交流の場の設定 <ul style="list-style-type: none"> ・ 互いのよさに気づく ・ 自分のやりたい動きを見つける ・ 運動のコツを知る ・ 作戦を考える ・ 応援をする ○一人ひとりのめあてや気づいたことの効果的な提示 ○学び合いをする力の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己評価 (自分の力を知る, 次時のめあてをもつ) ・ 相互評価 (互いによさを見つけて表す, 教え合う) ・ 学習資料を利用する力 ・ 話し合いの力